



地域で学ぶ・地域の方から学ぶ・学びを地域に広げる 生活科・総合的な学習の時間・国語科・特別活動(6月前半)

1・2年生 まちたんけん 6/12

1・2年生は、手をつないで、みんなで公民館等、学校の周りを安全に探検できました。横断歩道の渡り方、道路の歩き方など上手にできました。2年生は、去年の経験を生かして、優しく教えてあげました。



3年生 寒川漁協の見学 寒川ビーチの清掃 6/3・6/6

3年生は、寒川町のいいところ見つけの一環で寒川漁協の見学に行きました。お話をしっかりと聞いて、質問したり、メモをとったりと真剣に学習できました。施設の中や港の様子も見学しました。雨が降り出したため、予定していた寒川ふれあいビーチの清掃活動を6日に延期して行いました。暑い日でしたが、大好きな地元の海をきれいにしようとみんなで頑張りました。



1・4年生 交通安全教室 6/11

あいにくの雨続きで、1年生も4年生も体育館での教室となりました。四国中央警察署や交通安全協会の方々が、1年生には、道路の正しい歩き方、横断歩道の渡り方を教えてくださいました。

4年生は、自転車の正しい乗り方やマナーについて教えてもらいました。残念ながら、自転車の練習はできませんでしたが、自転車に乗るときに気を付けなければならないことを分かりやすく教えてくださいました。

事故に遭うことなく、事故を起こすことなく、安全に生活できるように教えていただいたことを、繰り返し思い出していきたいものです。



5年生 防災オンライン学習 (石巻市 佐藤敏郎先生から学ぶ) 6/2

佐藤敏郎先生と本校5年生とのオンライン学習も今年で3年目となります。今年も、保護者や地域の方々が16名参加してくださいました。東日本大震災において、娘さんを亡くされ、その教訓を長年語りついでおられる佐藤敏郎先生から児童が学ばせていただけることは大変ありがたいこ

とです。お話の中には、すっかり姿を変えてしまった女川町や並べられた遺体を目の前にして感じたことなど、察するに余りあるものでした。防災とは、地域とつながること、未来を語ること、自分と大切な人の命を守ること、「ただいま」を毎日言うこと、そして、防災はハッピーエンドのためにあることなど、これから防災・減災学習を本格的に始める5年生にとって、自分事として学びをスタートできる良い学びとなりました。

5年生の児童の感想では、大震災の怖さ、家族を失う悲しみ、津波の恐ろしさ、命の大切さがよく分かったことや、自分の命も家族の命も絶対守りたいからこれから防災学習を頑張りたいという思いを発表してくれました。未来を拓くための防災学習をこの一年間5年生がリードし、全校に、地域にと広げてくれることが楽しみです。



6年生 国語「インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう」 6/3

6年生の国語の学習に、木花正純様が来てくださいました。木花様が指導してくださった運動会表現活動「八幡丸舟唄」をテーマに選んだグループのインタビューでした。

「八幡丸舟唄はいつ始まったのですか」「なぜ八幡丸と名前がついたのですか」などの6年生の質問に、丁寧に答えてくださいました。この生きたインタビュー学習をもとに、まとめて発信していきます。長年、本校高学年の児童に「八幡丸舟唄」を指導してくださった木花様は、今年で引退されます。6年生に達筆の応援のお手紙もいただきました。次の指導者の方への引継ぎもしてくださっています。これからも地域の文化、寒川小学校の伝統「八幡丸舟唄」を皆でつないでいきましょう。木花様、本当にありがとうございました。

また、先日、江之元八幡丸の方々が、校長室に寄贈していただいている「八幡丸のお船の掛物」も取り換えてくださいました。こちらは、かつて愛護班のお母さん方が一針一針刺繍したものだそうで、学校に寄贈するのがふさわしいと持ってきてくださいました。金糸がきれいに光っています。参観日には廊下に飾ります。是非見に来てください。この図柄は「志度寺の海女の玉取り伝説」がモチーフだそうです。大切にさせていただきます。



6年生 被爆体験記朗読会 6/13

修学旅行を前に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館より講師の方をお招きして、被爆体験朗読会を行いました。お二人の朗読ボランティアのうち、島末 加賀美 様は、本校出身でいらして、広島にお住まいの方です。初めに、広島に原子爆弾が落とされた日のこと、原子爆弾の威力を伝えてくださり、DVDを視聴しました。その後は広島に残る原爆に関する手記や詩を朗読してくださいました。6年生も一緒に声に出して読みました。広島訪問を前に、自分たちが学ぶべきこと、人として見て感じてこなければならない現実をしっかりと学ぶことができた時間となりました。島末様からは、しっかり見て聞いてきて、それ以上に、友達との楽しい思い出もいっぱい作ってくださいね、との温かいエールもいただきました。

